

令和 8 年度採用

群馬県公立高等学校教員選考試験問題

世 界 史

受 験 番 号		氏 名	
------------------	--	------------	--

注 意 事 項

- 1 「開始」の指示があるまでは、問題用紙を開かないでください。
- 2 問題は、1 ページから 11 ページまであります。「開始」の指示後、すぐに確認してください。
- 3 解答は、すべて解答用紙に記入してください。
- 4 「終了」の指示があったら、直ちに筆記具を置き、問題用紙と番号順に重ねた解答用紙を机の上に置いてください。
- 5 退席の指示があるまで、その場でお待ちください。
- 6 この問題用紙は、持ち帰ってください。

1 次の文章A、Bを読み、後の(1)～(14)の問いに答えなさい。

A ①中国の古代文明は、黄河流域と長江流域を中心に各地で発生した。黄河中流域では、前 5000 年頃から、赤地に美しい文様の彩文土器（彩陶）を特色とする（a）文化が開けた。さらに、前 2500 年頃からは、東方から薄手の黒色土器（黒陶）を特色とする（b）文化が広がり、集落の規模も大きくなった。

城壁に囲まれた大規模な邑が黄土台地に散在するようになり、やがて有力な邑を中心に連合するようになった。伝説では夏王朝が最初の王朝とされるが、現在確認されている最古の王朝は殷（商）である。

西方の（c）流域におこった②周は、前 11 世紀に殷を倒して華北を支配し、（d）を都に定め勢力を拡大した。しかし前 8 世紀に周の都が移ると、周王の威光は衰え、諸侯が競い合うようになった。③この時代を春秋・戦国時代という。戦国時代には、戦国の七雄を中心に、勢力争いがくり広げられた。戦国時代の諸国は、農民を徴発して強大な軍隊を編成するなど、富国強兵策につとめた。その典型が、前 4 世紀なかばに秦の孝公に仕えた政治家（e）が実施した改革である。これによって秦は急激に台頭した。

春秋・戦国時代に、社会・経済の変動によって④氏族集団に基づかない統治が進むと、氏族は次第に解体された。社会変動にともなって新しい秩序が求められる一方、個人の才能も認められるようになり、⑤多くの思想家が現れた。

- (1) 文中の空欄（a）～（e）に入る適切な語句を以下の語群ア～スよりそれぞれ 1 つずつ選び、記号で答えよ。

語群

ア：韓非	イ：鎬京	ウ：黒竜江	エ：紅山	オ：長安	カ：李斯	キ：渭水
ク：淮河	ケ：商鞅	コ：殷墟	サ：仰韶	シ：洛陽	ス：竜山	

- (2) 下線部①について、次の資料 1 は、黄河流域と長江流域でみられた新石器文化の特徴について、生徒がまとめたものである。資料 1 中の ～ に適する語句の組合せとして正しいものを、後のア～エから 1 つ選べ。

資料 1

黄河中・下流域の黄土台地では、前 6000 年頃、 などの栽培を主とする新石器文化がおこりました。一方、長江中・下流域では、 の栽培を主とする新石器文化が展開し、 遺跡はその代表的遺跡です。

ア	I	アワ・キビ	II	稲	III	河姆渡
イ	I	アワ・キビ	II	稲	III	半坡
ウ	I	稲	II	アワ・キビ	III	河姆渡
エ	I	稲	II	アワ・キビ	III	半坡

- (3) 下線部②について、周の封建制において、氏族集団内の上下関係や秩序を定めたものを何というか、書け。

- (4) 下線部③について、春秋・戦国時代について述べた次の文のうち、正しいものをア～エから 1 つ選び、記号で答えよ。

ア 「春秋」の名称は、司馬光の著した歴史書に由来する。

イ 戦国時代は、晋が韓、魏、燕の 3 国に分裂してから秦の統一までの時代をいう。

ウ 春秋時代に活躍した斉の桓公、晋の文公などの有力諸侯は覇者と呼ばれた。

エ 戦国時代になると、各地の諸侯は周王を尊び、異民族の侵入を防ぐことを名目としながら勢力を拡大した。

- (5) 下線部④について、次の資料2は、「なぜ春秋・戦国時代に氏族集団に基づかない統治が進んだのだろうか。」という問いを設定した生徒がまとめたメモの一部である。[I]には適する語句を、[II]には適する文をそれぞれ書け。

資料2

春秋時代の中頃から[I]農具が使用されるようになり、戦国時代初期に[I]の犁を牛に引かせる牛耕が始まりました。これにより、[II]して、小家族でも自立した農業経営が可能になったことが、氏族集団に基づかない統治が進んだ理由の1つと考えます。

- (6) 下線部⑤について、春秋・戦国時代に現れた思想家について述べた次の文のうち、正しいものをア～エから1つ選び、記号で答えよ。

- ア 張儀は自然と社会の動きの基本要素を陰陽五行説で説いた。
イ 孟子は人の本性を善とし、王道政治を理想とした。
ウ 荀子は、血縁関係にとらわれない無差別の愛を説いた。
エ 墨子は人為的なものを廃し、自然の道と天命に従う無為自然を説いた。

- B 戦国時代の動乱を収め、最初の統一王朝となったのは秦であった。東方の六国を次々に滅ぼした秦王は、前221年に統一を果たして、「王」の上の君主として「皇帝」と称した(始皇帝)。始皇帝は、それまで国ごとに異なっていた度量衡や文字を全国的に統一するとともに、青銅銭である(f)を通用させた。さらに戦国諸国で発達した⑥思想・文化を中央で統制するなど皇帝権力の強化をおしすすめた。しかし、性急な統一政策や土木事業の負担に対して不満が募り、始皇帝が没すると、⑦全土で反乱が発生した。反乱勢力のうち、農民出身の劉邦と楚の名門出身の項羽が相次いで都(g)を占領し、秦は統一からわずか15年で滅びた。項羽を倒した劉邦は前202年に皇帝の位につき、漢(前漢)を建てた。

秦が急激な改革のためにかえって滅びた教訓もあり、⑧漢は外交・内政ともに現実的な政策をとって国力の充実に努めた。前2世紀後半に即位した武帝は、⑨匈奴に対する反撃を図るなど、⑩積極的な対外政策によって領土を拡大した。しかし武帝の死後、皇帝側近の外戚と宦官が勢力を持つようになり、やがて外戚が皇帝の位を奪って新を建てた。新では周代を理想とする儒家思想に基づいて政治が行われたが、諸改革は社会の混乱を招き、(h)の乱などの農民の反乱が続発して新は滅びた。代わって漢王室の一族(i)が光武帝として皇帝に即位し、漢を復興した(後漢)。後漢では、地方に基盤を築いた豪族が中央政治にも進出し、外戚や宦官との権力抗争が深まった。⑪2世紀後半には、宦官による反対派の官僚・学者への弾圧が起こり中央政府が混乱するなか、各地で豪族・武装勢力が乱立し、後漢は220年に滅亡した。

漢代は、農業・商工業が成長する一方で、各地で豪族が台頭した。また、⑫中国の古典文化が確立する時期でもあった。

- (7) 文中の空欄(f)～(i)に適する語句をそれぞれ書け。

- (8) 下線部⑥について、次の資料3は、始皇帝がおこなった思想統制策について記したもの的一部分である。この政策は何と呼ばれるか、書け(資料は一部省略したり、書き改めたりした部分がある)。

資料3

「・・・臣請うらくは、史官の秦記にあらざるは皆なこれを焼き、博士の官の職する所にあらずして、天下に敢て詩・書・百家の語をおさむる者あらば、ことごとく守・尉にいたりて、まじえてこれを焼かん。・・・」
・・・禁を犯す者四百六十餘人、皆なこれを・・・あなうめにし、天下にこれを知らしめて以て後を懲らす。

(歴史学研究会編「世界史史料3」岩波書店)

- (9) 下線部⑦について、このときに起こった、中国史上最初とされる農民反乱を何というか、書け。

- (10) 下線部⑧について、次の資料4は、漢の統治政策について、生徒が教師と話し合っている場面の一部である。後の i)、ii) の問いに答えよ。

資料4

教師：右の写真は、中国の雲南省から出土した前漢の時代の金印の印影です。

生徒：福岡県から出土した「漢委奴国王」の印と、写真の印はとても似ていますね。

教師：写真の印には「滇王之印」と刻まれており、前漢の武帝が与えたものとされています。

生徒：このような印には、どのような目的があったのでしょうか。

教師： I という目的です。このようにして、当時の国際関係が作られていったのです。

生徒：ところで、前回の授業の終わりに、先生が「前漢の武帝の時代には、前漢初期に比べて国内の統治体制が変化した。」と言っていましたが、具体的にはどのような変化があったのですか。

教師：良いところに着目しましたね。それでは、その点について具体的に考えてみましょう。

- i) 資料4中の空欄 I に適する文として正しいものをア～エから1つ選び、記号で答えよ。
- ア 皇帝が貢ぎ物と印綬を送ることで、周辺の民族に軍事力を提供させる
 - イ 皇帝が貢ぎ物と印綬を送ることで、周辺の民族の臣下となることを約束する
 - ウ 皇帝が称号と印綬を与えることで、周辺の民族の支配者を皇帝中心の秩序の中に位置付ける
 - エ 皇帝が称号と印綬を与えることで、周辺の民族が来航して対等に貿易することを承認する
- ii) 資料4中の二重線部について、統治体制が変化することになった契機に触れながら、次の語句を用いて説明せよ。

封建制

- (11) 下線部⑨について述べた次の文のうち、正しいものをア～エから1つ選び、記号で答えよ。
- ア 匈奴の遊牧国家は、前7世紀に南ロシアの草原地帯に成立した。
 - イ 匈奴の冒頓単于は、侵入してきた前漢に敗北し、和平をはかった。
 - ウ 匈奴の君主は、前漢に対抗するために、使節を大月氏に派遣した。
 - エ 匈奴の一部は、八王の乱に乗じて西晋に侵入した。
- (12) 下線部⑩について、前漢の武帝による一連の対外戦争の結果招いた財政上の問題点と、この問題に対処するために武帝が実施した政策について説明せよ。
- (13) 下線部⑪について、この弾圧を何というか、書け。
- (14) 下線部⑫について、漢代の文化について述べた文として、正しいものをア～エから1つ選び、記号で答えよ。
- ア 前漢の時代に、司馬遷は紀伝体で『史記』を著した。
 - イ 経典の字句解釈を統一するため、孔穎達が『五経正義』を編纂した。
 - ウ 董仲舒の献策で、劉邦の時代に儒学が官学とされた。
 - エ 後漢の宦官であった鄭玄は、製紙法を改良した。

- 2 次の文章A、Bを読み、文中の空欄(a)～(j)に適切な語句を入れなさい。また、後の(1)～(12)の問いに答えなさい。

A ①ゲルマン諸国家の大半が短命だったのに対し、その後着実に領土を広げ、最有力国として西ヨーロッパ世界の形成に大きな役割を果たしたのは、フランク王国であった。481年にクローヴィスがフランク王に即位して(a)朝を開き、その後に全フランクを統一して、ガリア中部を支配下においた。②クローヴィスはローマ教会の支持をとりつけ、フランク王国発展の基盤をつくった。6世紀半ば、フランク王国はブルグンド王国などを滅ぼして全ガリアを統一したが、8世紀には王権が衰え、王家の行政・財政の長官である宮宰(マヨル＝ドムス)が実権を掌握するようになった。フランク王国は732年、ピレネー山脈を越えて北上するイスラーム勢力の(b)朝軍を、トゥール・ポワティエ間の戦いで撃退した。その後、政治の実権を握ったピピンは751年に王位を奪って(c)朝を開き、③ローマ教皇との結び付きを深めていった。ピピンの子④カール大帝はイスラーム勢力と戦う一方、西ヨーロッパの広大な領域を支配下においた。

カール大帝の死後、(c)朝は相続争いから、⑤東フランク・西フランク・イタリアの3王家に分かれた。東フランク王国では、10世紀初めに(c)朝が断絶した後、有力な諸侯の選挙による王政が始まった。ザクセン朝の(d)は、イタリアに遠征してイタリア王位を兼ねるようになり、962年、空位となっていたローマ皇帝の冠を教皇から授けられた。以後ドイツ王に選ばれた者が皇帝となる慣例が生まれ、その国家は後に⑥神聖ローマ帝国とよばれた。西フランク王国でも、10世紀末に諸侯たちによってパリ伯(e)が国王に選ばれた。

- (1) 下線部①について、ゲルマン人社会を記した重要な史料である『ゲルマニア』を著した人物名を書け。
- (2) 下線部②について、ある生徒から「なぜクローヴィスはローマ教会の支持を得たのですか。」と質問を受けた。あなたが教師であれば、どのように説明するか、宗教面に着目して書け。
- (3) 下線部③について、ローマ教皇とピピンとの結び付きが深まっていった経緯を、ローマ教皇とピピンがそれぞれ行ったことに触れながら、次の語句を用いて説明せよ。

ランゴバルド王国

- (4) 下線部④について、以下のi)、ii)の問いに答えよ。
- i) カール大帝の業績について述べた次の文X・Yの正誤の組合せとして正しいものをア～エから1つ選び、記号で答えよ。
- X 中央アジアから侵入してきたアルタイ語系のマジャール人を撃退し、イベリア半島にも勢力を拡大した。
- Y 法学者トリボニアヌスらに『ローマ法大全』の編纂を命じるなど、法律や司法制度の整備を進めた。
- ア：X－正 Y－正 イ：X－正 Y－誤 ウ：X－誤 Y－正 エ：X－誤 Y－誤
- ii) 次の資料1は、「カールの戴冠は、歴史的にどのような意義を持つのか。」という問いを設定した生徒がまとめたものである。これに対し、教師であるあなたは、生徒の理解を更に深めるために、資料2のとおり助言内容をまとめた。□に適する文を書け。

資料1 <カールの戴冠の歴史的意義について>

政治的には、カール大帝は、ビザンツ帝国からの自立を目指す教皇レオ3世からローマ皇帝の帝冠を受け、西ローマ帝国を受け継ぐ支配者となりました。この結果、フランク王国がビザンツ帝国に対抗する政治勢力として成立しました。宗教的には、ローマ教会がビザンツ帝国からの従属から独立し、ローマ＝カトリック教会の支配体制が西欧世界で成立しました。このように、カールの戴冠は、西ヨーロッパ世界が政治的・宗教的に独立したという歴史的意義を持ちます。

資料 2 <助言内容>

カールの戴冠の意義について、政治面や宗教面からはよく考察できていますが、文化面にも触れながら考察すると更によりくなります。カール大帝は、 を進めました。これはカロリング＝ルネサンスと呼ばれます。カールの戴冠によって、古代ローマ文化、キリスト教、ゲルマン人からなる西ヨーロッパ文化圏が成立したことも確認しておきましょう。

- (5) 下線部⑤について、フランク王国を分割した 2 つの条約のうち、870 年に結ばれた条約名を書け。
- (6) 下線部⑥について、神聖ローマ帝国の皇帝について述べた次の文のうち、正しいものをア～エから 1 つ選び、記号で答えよ。
- ア ハイน์リヒ 4 世は、叙任権闘争で対立した教皇インノケンティウス 3 世から破門された。
- イ フリードリヒ 1 世は、外交交渉により、一時エルサレムをイスラーム勢力から回復した。
- ウ カール 4 世は金印勅書を発布し、皇帝選出権を 7 人の選帝侯に定めた。
- エ カール 5 世は、シュマルカルデン同盟を結んでルターと争った。
- B 8～10 世紀、西ヨーロッパは絶えず外部勢力の侵入に見舞われていた。ノルマン人の一部は 8 世紀後半から、商業や海賊・略奪行為を目的として、ヨーロッパ各地に本格的に海上遠征をおこなうようになった。10 世紀初め、(f) が率いる一派は、北フランスに上陸してノルマンディー公国を建てた。ここからさらに分かれた一派は、12 世紀前半、南イタリアとシチリア島に侵入し、(g) を創始者として両シチリア王国を建国した。また、大ブリテン島のイングランドに成立していたアングロ＝サクソン王国もノルマン人の侵入に悩まされ、9 世紀末に (h) 大王が一時これを撃退したものの、1016 年にはデーン人の王 (i) に征服された。その後、アングロ＝サクソン系の王家が復活したが、⑦1066 年にノルマンディー公ウィリアムが王位を主張してイングランドへ攻め込み、ウィリアム 1 世として即位してノルマン朝を開いた。
- 一方、リューリクを首領とするノルマン人の一派はドニエプル川流域のスラヴ人地域に進出して、9 世紀に (j) 国を、ついで⑧キエフ公国を建設し、これがロシアの起源となった。しかし 13 世紀になると⑨モンゴル人が侵入し、中央ユーラシア西部にキプチャク＝ハン国を建国した。15 世紀になると、モスクワ大公国が急速に勢力をのぼし、大公⑩イヴァン 3 世の時代に東北ロシアを統一し、1480 年にはモンゴルの支配から脱した。
- 外敵の侵入を受けた西ヨーロッパでは、皇帝・国王・諸侯(大貴族)・騎士(小貴族)や聖職者などの有力者たちは、自分の安全を守るため、たがいに政治的な結び付きを求めようになった。この中で生まれた人と人との結び付きを⑪封建的主従関係という。この封建的主従関係と⑫荘園制を中心として成り立つ西ヨーロッパ中世世界に特有の仕組みが、封建社会である。
- (7) 下線部⑦について、この戦いの名称を書け。
- (8) 下線部⑧について、10 世紀末に即位し、ギリシア正教を国教化したキエフ大公の名を書け。
- (9) 下線部⑨について、モンゴル民族に関して述べた次の文のうち、正しいものをア～エから 1 つ選び、記号で答えよ。
- ア 6 世紀半ばに柔然を倒した突厥は、可汗の統率のもとで中央ユーラシアに領土を拡大した。
- イ 13 世紀には、モンゴル部族のフレグが、モンケ＝ハンの命を受けてアッバース朝を滅ぼし、イル＝ハン国を建てた。
- ウ 14 世紀半ばに中央アジアのキプチャク＝ハン国が東西に分裂する中、頭角をあらわしたティムールは、チンギス＝ハンの子孫を自称し、中央アジアにティムール朝を建てた。
- エ 第一次世界大戦中、ロシア赤軍の支援を受けて、チョイバルサンらを中心にモンゴル人民共和国が建国された。
- (10) 下線部⑩について、イヴァン 3 世がはじめて自称したとされる、「皇帝」を意味する称号を書け。

- (11) 下線部⑪について、封建的主従関係の特徴を書け。なお、次の資料3から読み取れることにも言及すること（資料は一部省略したり、書き改めたりした部分がある。）。

資料3

「都市ヘントと結んでいた貴族イワンにその失政を批判されて、ギョーム」伯は、とび上がり、・・・こう言った。「では、余は、汝が余に対し行なっていた臣従礼を破棄し、汝と対等になり、すぐさま戦いを挑みたい、なぜなら、余は伯の位にあって、今まであらゆる点で正しく適切に行動してきたのだから。」

「・・・伯の言葉に対して、イワンたちの使者が答えて」「・・・イワンとダニエルとヘントの人々は、あなた〔伯〕に次のように通告します、今まで彼らがあなたに対して犯すことなく守ってきた臣従礼を、ただちにわれわれ〔イワンたちから伯のもとへ派遣された使者〕を通じて破棄します、・・・」

（ヨーロッパ中世史研究会編『西洋中世史料集』）

- (12) 下線部⑫について述べた次の文のうち、正しいものをア～エから1つ選び、記号で答えよ。
- ア 荘園は、村落を中心に領主直営地、農民保有地及び牧草地・森などの共同利用地から成り立つ。
 - イ 荘園内の農民の多くは農奴と呼ばれ、荘園領主に対して不輸不入権を持っていた。
 - ウ 農奴は領主裁判権で裁かれたが、移動の自由は認められていた。
 - エ 荘園内におかれた教区教会は農民に負担をかけることはなかった。

- 3 次の文章は、「高等学校学習指導要領」（平成30年3月告示）の世界史探究の「2 内容」の大項目「E 地球世界の課題」から一部抜粋したものである。教師であるあなたは、この内容を踏まえ、生徒が主題を設定して探究する授業を実施することにした。後の問いに答えなさい。

(4) 地球世界の課題の探究

次の①から③までについて、内容のA、B、C及びD並びにEの(1)から(3)までの学習を基に、持続可能な社会の実現を視野に入れ、主題を設定し、諸資料を活用し探究する活動を通して、以下のア及びイの事項を身に付けることができるよう指導する。

- ① 紛争解決や共生
- ② 経済格差の是正や経済発展
- ③ 科学技術の発展や文化の変容

問 次の資料1は、ある生徒が「科学技術の発展や文化の変容」について設定した主題であり、資料2は、その生徒が主題について探究活動を進めるに当たり作成したメモの一部である。

資料1

主題 「情報の伝達や通信は歴史上どのように発展し、当時の社会にどのような影響を与えたのだろうか。」

資料2

【メモA】

I 制とは、街道を整備しながら、そこに一定の距離をおいて宿泊所や兵舎を設け、人や馬を活用しながら情報を伝えるネットワークであり、古代オリエントではアッシリアやアケメネス朝などで用いられた。I 制は、他の多くの国でも用いられ、統治に役立った。

【メモB】

15世紀半ばにグーテンベルクにより実用化された活版印刷術は、製紙法の普及と結び付き、書物の製作を迅速で安価なものとし、新しい思想の普及に大いに貢献した。17世紀には新聞が登場し、イギリスやフランスなどでは、①新聞や雑誌を備えた市民たちの情報交換の場も生まれた。

【メモC】

②19世紀の欧米では科学技術の発展が進む中、アメリカのIIによる電信機の発明や、アメリカのベルによる電話機の発明など、通信やメディアにおいても画期的な発明が相次いだ。③通信手段の発展により情報面での世界の一体化が急速に進んだ。

【メモD】

20世紀に入り、1920年にはラジオ放送が始まった。1925年に初の放送に成功したテレビジョン放送は、第二次世界大戦後に世界各地に普及した。また、④衛星通信の開発やインターネットの普及など、情報通信技術の発達私たちの生活を大きく変えた。

- (1) 資料2中の I、II に適する語句をそれぞれ書け。
- (2) 下線部①について、このような情報交換の場の中でも、17～18世紀にかけてイギリスのロンドンを中心に流行した場は何と呼ばれたか、書け。
- (3) 下線部②に関して、19世紀の欧米における自然科学の発展について述べた次の文のうち、正しいものをア～エから1つ選び、記号で答えよ。
- ア ドイツのマイヤーとヘルムホルツは、エネルギー保存の法則を発見した。
 - イ フランスのファラデーは、細菌学を発達させた。
 - ウ イギリスのハーヴェーは、血液循環の原理を発見した。
 - エ スウェーデンのリンネは、植物分類学を確立した。

- (4) 下線部③について、次の資料3は、情報による世界の一体化が進んだことについて、生徒が説明した際に用いたものである。後の i)、ii) の問いに答えよ。

資料3 <説明原稿>

1830 年代に電信機が発明されると、鉄道網などに沿ってケーブルが設置されるようになりました。1850 年には英仏間のドーヴァー海峡、1858 年には大西洋を横断する海底ケーブルが敷設され、情報伝達の革命的な向上をもたらしました。電信の登場は、帆船や蒸気船に比べ、情報伝達を大幅に短縮することになりました。

- i) 教師であるあなたは、生徒の理解を更に深めるために、資料4のとおり助言内容をまとめた。資料4中の□に適する文を書け。

資料4 <助言メモ>

海底ケーブルの敷設によって世界の一体化が進んだことを説明するために、帆船や蒸気船、電信の情報伝達日数をまとめた一覧表を用意したり、□を用いて視覚的に示したりしてはどうですか。このように、二つの資料を比較したり関連付けたりしながら、情報通信の発達が当時の世界に与えた影響について、多面的・多角的に考察、構想し、表現するとよいでしょう。

- ii) 19 世紀半ばにロンドンに開設され、世界の経済情報を収集し新聞社に配信し、世界最大の通信社に発展した会社名を書け。

- (5) 下線部④について、1950 年代から 60 年代にかけては、衛星通信の開発をはじめとした宇宙開発競争が進んだ。米ソ両国の宇宙開発競争について、当時の国際情勢に触れつつ、以下の語句を用いて説明せよ。

人工衛星 アポロ 11 号

- (6) 次の資料5は、資料2を基に生徒がまとめた考察メモの一部である。教師であるあなたが、生徒の学びを深めるために指導を行う際の配慮事項について述べた後の文 X・Y の正誤の組合せとして正しいものをア～エから1つ選び、記号で答えよ。

資料5 設定した主題に対して生徒がまとめた考察メモ

- ・第2次産業革命以降、情報通信技術の発達は、大衆社会という新たな社会状況の出現につながったのではないか。
- ・情報通信技術を含む科学技術の急速な発達により、新たな課題が生まれたのではないか。

X 情報通信技術の発達と大衆社会の形成との関連について、生徒が、「歴史総合」の中で学習した内容と関連付けながら考察できるようにする。

Y よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うため、科学技術の急速な発達により生まれた新たな課題解決のためにどのようなことができるのか、考えられるようにする。

ア：X－正 Y－正 イ：X－正 Y－誤 ウ：X－誤 Y－正 エ：X－誤 Y－誤

- 4 次の文章A～Cを読み、文中の空欄（a）～（k）に適切な語句を入れなさい。また、後の（1）～（11）の問いに答えなさい。

A 列強は①第2次産業革命が進展する中で、アジア、アフリカ、オセアニアで植民地拡張政策を推進し、世界各地で武力を行使するようになった。この現象を帝国主義といい、欧米優位の世界の一体化が進んだ。②一部の工業国では独占資本の形成がみられた。

イギリスは本国と植民地の連携を強化することに努め、保守党の首相（a）の下、1875年にスエズ運河会社株を買収して運河経営権を手に入れた。さらに植民相ジョゼフ＝チェンバレンの下で、アフリカを中心に植民地の新規獲得を進めると同時に、白人の多い植民地には自治権を与えて本国との連携を確保した。しかし③アイルランドについては、1880年代以降に数度の自治法案が出されたが、可決に至らなかった。

フランスの第三共和政は当初、共和派と、王党派・カトリック・軍部の反共和派とが対立し、政情が不安定だった。1880年代後半には、対独復讐熱を利用した反共和派によるクーデタ騒ぎが起きた。また、1890年代後半には、反ユダヤ主義を背景にしてユダヤ系の大尉（b）が逮捕される（b）事件も起きた。

ロシアでは1880年代に工業化が進んだが、皇帝専政の下では国民の生活水準が低く国内市場が狭かったため、国外に市場が強く求められた。1891年に建設が始まった（c）鉄道は、国内開発だけでなく東アジア進出の手段ともなった。工業化の進展で増大した労働者の生活は苦しく、社会主義思想が広がり始め、マルクス主義を掲げるロシア社会民主労働党が創設されたが、直後に分裂した。レーニンが率いた多数派の（d）は、党員を少数の活動家に限定し、武装蜂起も否定しなかった。

- (1) 下線部①について、生徒から「第2次産業革命の進展が、なぜ植民地拡張政策につながったのですか。」と質問を受けた。あなたが教師であれば、どのように説明するか、書け。
- (2) 下線部②について、ドイツにおいて、最大のコンツェルンを形成した会社名として正しいものを次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。
ア クルップ社 イ スタンダード石油会社 ウ USスチール エ モーガン
- (3) 下線部③について、カトリック信徒への法的制約を最終的に撤廃することに寄与した人物を書け。

B アフリカ大陸では、ヨーロッパ列強による帝国主義的膨張が最も急激に進んだ。リヴィングストン、スタンリーらが探検を行い、大陸内部の様子が1870年代までにおおむね明らかにされ、さらに熱帯の風土病マラリアの特効薬が開発・普及したことで、ヨーロッパ人による奥地への進出が可能になった。ベルギー国王（e）によるコンゴ領有宣言をめぐって1884年に開かれた④ベルリン会議を機に、アフリカ分割が一気に進んだ。

イギリスは、エジプトとケープ植民地を結ぶ領域の確保を目指す縦断政策を進めた。セシル＝ローズらの扇動を受け、ダイヤモンド鉱山と金鉱山を狙って1899年に南アフリカ戦争を起こし、ブール人の（f）共和国とオレンジ自由国をケープ植民地に併合した。一方、フランスは横断政策をとり、1881年に（g）を保護国とした後、サハラ砂漠を中心とする西アフリカ一帯の占領を経て、ナイル川上流へ進出しようとした。⑤この両国の間には植民地支配をめぐる対立と接近がみられた。

⑥ドイツは、二度にわたる（h）事件を起こした。だが、イギリスがフランスを支持したため、結局（h）はフランスとスペインによって分割され保護国になった。

- (4) 下線部④について、この会議で決まった内容について、会議を開催した人物名を含めながら、説明せよ。
- (5) 下線部⑤について、19世紀末から20世紀初頭におけるイギリスとフランスの間で見られた対立と接近の具体例について、対立から接近に転じた背景を明らかにしながら、説明せよ。

- (6) 下線部⑥について、19 世紀後半にドイツの保護領となった地域として正しいものを次のア～エから 1 つ選び、記号で答えよ。
- ア カメルーン イ マダガスカル ウ トリポリ エ アルジェリア

C アフリカは、20 世紀初めまでに、エチオピア帝国と (i) 共和国を除き、全域がヨーロッパ列強の支配下におかれた。先進工業国は、カカオなどの嗜好品植物をアフリカから得て食文化を豊かにしただけでなく、やし類から抽出される油脂などをもとに化学工業を発展させていった。

⑦第二次世界大戦後、1955 年のアジア＝アフリカ会議に出席したアフリカの独立国は⑧エジプトなどわずか 4 か国で、当時のアフリカの大半は、まだヨーロッパ主要国の植民地だった。だがその後、1957 年のガーナの独立を先頭に⑨次々と独立国が誕生した。1963 年には、アフリカの連帯と統一を目指す (j) も創設され、多極化する世界の中であってアフリカもその一角を占めるようになった。しかし、⑩その後のアフリカの歴史は平坦なものではなかった。

二度にわたる石油危機以降、アフリカ南部では白人少数支配が揺らいだ。ローデシアは、1980 年に黒人主体の国となり、国名も (k) に変更した。そして南アフリカ共和国においても、⑪人種隔離政策の撤廃が 1991 年に宣言された。世界的不況に加えて、国連や各国が実行した経済制裁が、黒人勢力による体制変革運動を後押ししたのである。

- (7) 下線部⑦について、第二次世界大戦後に起こった次の A～C の出来事が、古いものから年代順に正しく配列されているものを、後のア～カから 1 つ選び、記号で答えよ。

A ハンガリーで反ソ暴動が発生し、当時の首相ナジ＝イムレが処刑された。
B 西ドイツのブラント首相は東方外交を展開し、ワルシャワのゲットー前で謝罪した。
C 中国の周恩来首相とインドのネルー首相が会談し、平和五原則を発表した。

ア A→B→C イ A→C→B ウ B→A→C
エ B→C→A オ C→A→B カ C→B→A

- (8) 下線部⑧について、第 3 次中東戦争でイスラエルに占領されたが、のちのエジプト＝イスラエル平和条約締結により 1982 年にエジプトに返還された地域はどこか、書け。

- (9) 下線部⑨について、次の資料 1 は、「戦後のアフリカの独立」をテーマに、ある生徒がまとめたものである。資料 1 中の X には適する文を、 Y には適する語句をそれぞれ書け。

資料 1 <発表メモ>

1960 年は「アフリカの年」と呼ばれていますが、その理由は、 X からです。

一方、モザンビークやアンゴラなどのように、1970 年代まで独立が遅れた国々もありました。モザンビークとアンゴラの独立が遅れたのは、宗主国の Y が独立を認めなかったからです。

- (10) 下線部⑩について、教師であるあなたは、授業において、「独立後のアフリカ諸国が直面した課題」をテーマに、複数の資料を活用して生徒が考察する活動を実施することにした。具体的活動例について、生徒に気付かせたいことに触れながら、説明せよ。

- (11) 下線部⑪について、この時の南アフリカ共和国大統領はだれか、書け。

- 5 ユーラシアの諸地域では、古代国家の解体後、新しい制度や理念を持つ国家や社会が形成され、これらの地域を結ぶ交流が一段と活発になった。とりわけ、パミール高原の東西に広がる砂漠やオアシス地帯を中心とした地域は中央アジアと呼ばれ、古くから東西交易路の要衝であったが、8世紀以降にはイスラーム勢力が拡大し、トルコ民族の移動・定着後は「トルコ人の地域」を意味するトルキスタンの呼称も生まれた。

以上を踏まえ、8世紀から10世紀までの中央アジアにおけるイスラーム化について、具体的な王朝や民族名を挙げながら、次の語句を全て用いて300字以内で記述しなさい。なお、算用数字は1マスに2桁まで可とし、それぞれの語句を初めて使用した箇所に下線を付すこと。

タラス河畔の戦い	ウイグル	奴隷軍人	カラハン朝
----------	------	------	-------

世界史解答用紙	2 枚中の 1	受験 番号	氏 名	
---------	---------	----------	--------	--

(8 年)

1

(1)	a		b		c	
	d		e			
(2)			(3)			(4)
(5)	I		II			
(6)						
(7)	f		g		h	
	i					
(8)			(9)			
(10)	i)					
	ii)					
(11)						
(12)						
(13)			(14)			

2

	a		b		c	
	d		e		f	
	g		h		i	
	j					
(1)						
(2)						
(3)						
(4)	i)					
	ii)					
(5)			(6)			(7)
(8)			(9)			(10)
(11)						
(12)						

以下はあくまでも解答の一例です。

世界史解答用紙	2 枚中の 1	受験 番号	氏 名	(8 年)
---------	---------	----------	--------	-------

1【52点】

(1)	a	サ	b	ス	c	キ				
	d	イ	e	ケ	【各 2 点】					
(2)	ア		【 3 点 】	(3)	宗法	【 2 点 】	(4)	ウ	【 3 点 】	
(5)	I	鉄製	【 2 点 】	II	(例) 農業生産力が向上した				【 2 点 】	
(6)	イ		【 2 点 】							
(7)	f	半両銭		g	咸陽		h	赤眉		
	i	劉秀		【各 2 点】						
(8)	焚書坑儒		【 2 点 】		(9)	陳勝・呉広の乱		【 2 点 】		
(10)	i)	ウ		【 2 点 】						
	ii)	(例) 前漢は、秦の郡県制を継承するとともに封建制も併用した郡国制を施行したが、呉楚七国の乱を契機に実質的に郡県制に移行し、武帝期には中央集権体制が確立した。							【 4 点 】	
(11)	エ		【 2 点 】							
(12)	(例) 対外戦争の負担により財政難に陥ったため、財政再建を目的として塩・鉄・酒を専売としたほか、均輸・平準法を実施した。									【 4 点 】
(13)	党錮の禁		【 2 点 】		(14)	ア		【 2 点 】		

2【55点】

【各2点】

	a	メロヴィング	b	ウマイヤ	c	カロリング
	d	オットー 1 世	e	ユーグ＝カペー	f	ロロ
	g	ルッジェーロ 2 世	h	アルフレッド	i	クヌート
	j	ノヴゴロド				
(1)	ダキトゥス 【2 点】					
(2)	(例) クローヴィスは、正統派のアタナシウス派に改宗したから。					【3 点】
(3)	(例) ローマ教皇は、ピピンのフランク王位継承を認めた。ピピンは、その返礼として、北イタリアのランゴバルド王国を攻撃してラヴェンナ地方を奪い、教皇に寄進した。					【4 点】
(4)	i)	エ 【2 点】				
	ii)	(例) アルグインら知識人を招き、ラテン語による文芸復興				【3 点】
(5)	メルセン条約 【2 点】		(6)	ウ 【2 点】	(7)	ヘースティングズの戦い【2 点】
(8)	ウラディミル 1 世【2 点】		(9)	イ 【3 点】	(10)	ツァーリ 【2 点】
(11)	(例) 主君が家臣に封土(領地)を与えて保護するかわりに、家臣は主君に忠誠を誓って軍事的奉仕の義務を負う、主君と家臣の個別の契約により結ばれる関係である。封建的主従関係は、主君と家臣の双方に契約を守る義務があり、契約に違反した場合、家臣にも服従を拒否する権利があった。					【6 点】
(12)	ア 【2 点】					

世界史解答用紙	2 枚中の 2	受験 番号	氏 名
---------	---------	----------	--------

(8 年)

3 【22 点】

(1)	I	駅伝 【2 点】	II	モース (モールス) 【2 点】
(2)		コーヒーハウス 【2 点】	(3)	ア 【3 点】
(4)	i)	(例) 海底ケーブルの敷設位置が分かる世界地図 【3 点】		
	ii)	ロイター通信社 【2 点】		
(5)		(例) ソ連は 1957 年に世界最初の人工衛星であるスプートニク 1 号の打上げに成功した。東西冷戦の中、ソ連と対立していたアメリカも人工衛星打ち上げに成功後、1969 年にはアポロ 11 号によって月面着陸を実現させた。 【5 点】		
(6)		ア 【3 点】		

4 【55 点】

【各 2 点】

	a	ディズレーリ	b	ドレフュス	c	シベリア
	d	ポリシェヴィキ	e	レオポルド 2 世	f	トランスヴァール
	g	チュニジア	h	モロッコ	i	リベリア
	j	アフリカ統一機構 (OAU)	k	ジンバブエ		
(1)	(例) 第 2 次産業革命の進展によって生産が過剰となり、商品の輸出先や資本の投下先を求めたから。 【 3 点】					
(2)	ア	【 2 点】	(3)	オコンネル (オコネル)	【 2 点】	
(4)	(例) ドイツのビスマルクによって開かれたベルリン会議 (ベルリン=コンゴ会議) では、ベルギー国王の所有地としてコンゴ自由国の設立を認めた。また、先占権、実効支配などアフリカの植民地化の原則を定めた。 【 4 点】					
(5)	(例) 英仏両国は、スーダンのファショダで衝突したが、ドイツの進出に対抗するために接近し、1904年に英仏協商を結んだ。 【 3 点】					
(6)	ア	【 2 点】	(7)	オ	【 3 点】	(8) シナイ半島 【 2 点】
(9)	X	(例) 1960年に独立したアフリカの国が最も多い	【 2 点】	Y	ポルトガル	【 2 点】
(10)	(例) 植民地の境界線を国境線として独立した国々は、一つの国家としてのまとまりを維持することが難しかったことに気付かせるために、ヨーロッパ列強により分割されたアフリカ地図、独立後のアフリカ諸国の国境線が描かれた地図及びアフリカにおける民族分布図を比較し、独立後のアフリカの国々において考えられる問題点について考察する活動を行う。 【 6 点】					
(11)	デクラーク	【 2 点】				

5 【16 点】

8	世	紀	初	め	、	ウ	マ	イ	ヤ	朝	が	中	央	ア	ジ	ア	へ	征	服	活	動	を	進	め	た	後	、	7	51	
年	に	は	ア	ッ	バ	ー	ス	朝	の	ム	ス	リ	ム	軍	が	タ	ラ	ス	河	畔	の	戦	い	で	唐	軍	を	破	り	
、	唐	の	勢	力	を	中	央	ア	ジ	ア	か	ら	後	退	さ	せ	た	。	9	世	紀	半	ば	に	ウ	イ	グ	ル	が	
滅	亡	す	る	と	、	ト	ル	コ	系	騎	馬	遊	牧	民	の	中	央	ア	ジ	ア	へ	の	西	進	が	活	発	化	し	
た	。	ア	ッ	バ	ー	ス	朝	か	ら	自	立	し	た	イ	ラ	ン	系	イ	ス	ラ	ー	ム	王	朝	の	サ	ー	マ	ー	
ン	朝	は	、	ト	ル	コ	系	騎	馬	遊	牧	民	を	奴	隷	軍	人	と	し	て	育	成	し	、	中	央	ア	ジ	ア	
で	の	勢	力	を	拡	大	し	た	。	こ	の	中	で	、	中	央	ア	ジ	ア	の	イ	ス	ラ	ー	ム	化	は	進	展	
し	た	。	ト	ル	コ	系	騎	馬	遊	牧	民	が	建	て	た	カ	ラ	ハ	ン	朝	は	、	10	世	紀	半	ば	に	イ	
ス	ラ	ー	ム	教	を	受	容	し	、	初	の	ト	ル	コ	系	イ	ス	ラ	ー	ム	王	朝	と	な	っ	た	後	、	10	
世	紀	末	に	は	サ	ー	マ	ー	ン	朝	を	倒	し	て	中	央	ア	ジ	ア	一	帯	を	支	配	し	た	。			300